

第9回鳥栖市総合教育会議 議事録

会 議 名	第9回鳥栖市総合教育会議
日 時	平成30年10月17日(水) 開会 午後 1時10分 閉会 午後 2時43分
会 場	市役所3階第1委員会室
公 開 ・ 非 公 開	公開
出 席 者	構成員：橋本市長、天野教育長、古澤教育委員、吉原教育委員、戸田教育委員、副田教育委員 事務局：江寄教育総務課長、眞子教育総務課総務係長 説明員：平川学校教育課長、 中島学校教育課参事兼課長補佐兼指導主事、 古賀学校教育課参事兼教育相談係長兼指導主事 久保社会福祉課長補佐兼保護係長 林こども育成課長補佐兼子育て支援係長
傍 聴	1人
協 議 事 項	◆鳥栖市における貧困家庭の実態と支援の在り方について ◆教職員の働き方改革について
発 言 者	内 容
橋本市長	はい、こんにちは。今日は総合教育会議に御出席いただきましてありがとうございます。今江寄課長の方から説明がありましたように、今日は「鳥栖市における貧困家庭の実態と支援の在り方について」、そして、「教職員の働き方改革について」ということで御議論をいただきたいと思います。今回は子供たちの貧困の問題ということもありまして、こども育成課からも出席をいただいておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。これは、実態の報告か何かありますか。こども育成課から説明をお願いします。
林こども育成課長補佐	(資料に基づき説明)
久保社会福祉課長補佐	(資料に基づき説明)
橋本市長	今説明のあった分は、配ることができる資料はありませんか。
久保社会福祉課長補佐	ございます。
橋本市長	大学進学とか言ってあった数値の分をください。コピーしていただいている間に補足というか、私が聞いたお話を少し御披露したいと思います。佐賀県の生活保護とか、その辺りの関係の方と話をしておりましたところ、佐賀県内の人口に対するひとり親家庭の比率、これは佐賀県の東部よりも西部の方が高い状況であります。ただ、西部の方の特徴は、ひとり親世帯であっても親と同居のひとり親世

帯ということで、生活的には安定している方が多いそうです。また、今年の3月までは鳥栖市のソーシャルワーカーをしていただいて、今年度から佐賀市のソーシャルワーカーをしていただいている渡辺さんという方がいらっしゃいますけど、その方と話をしておりますと、やはり特にこの東部地域については若くして離婚をされて、仕事を求めて子供を連れて鳥栖へ移り住んだというパターンが非常に多いということで、要するに周りに頼る人が非常に少ないという状況があって、生活困難に陥る確率は東部地区の方が非常に高いという傾向がありますとおっしゃってありました。

貧困とかこの虐待にも関わることなんですが、学校医をしていただいている歯医者さん方と話をすると、口腔の検査をするとネグレクトや虐待という状況がよく分かるということで、学校の歯科検診をした後、それと疑わしき方がいたときには保健の先生に必ず伝えているということでもあります。その中でもやはり、毎年同じ人がそこにひっかかる率が結構あって、なかなかそこが改善されないということでありまして、そしたら学校側とどう連携を保つのかということでありました。

口腔ケアもそうなんですが、今回特に子供の貧困を今回話題にしたのは、ちゃんと御飯を食べているのかというのが一つございます。御承知のとおり、若年期の栄養摂取が身体の発育、脳の発育に大変大きな影響を及ぼすということも分かっておりますので、やはり若年期にきちんと栄養摂取ができてないと、結局学習能力とか身体能力とかそこら辺に影響が出てきて、結果として貧困の連鎖が起きてしまう可能性が高いということもあります。あと、所得が少ないとどうしても炭水化物の摂取に偏ってしまうことが多いと言われていて、例えばおにぎりだけとかパンだけとか、あるいは麺類だけとかということになってきているということです。これは子供のことではありませんが、国民健康保険の会合に出て保健師さんと話をしておりますたら、実は佐賀県内でも鳥栖市の1人当たりのパン消費量と伊万里市の1人当たりのパン消費量を比べると、何と鳥栖市の皆さんはパンを伊万里市の人の3倍食べているんです。傾向として、炭水化物でおなかいっぱいにしてしまって、満腹感があるので結果として将来的な糖尿病予備軍をつくっているということにつながるらしいんですね。ですからたんぱく質摂取と野菜、食物繊維の摂取が非常に少ないので、要するに当座の身体と脳の発育に影響を及ぼすのはもちろんのこと、将来的に糖尿病になっていくということにもつながる、その素地をつくってるんだというふうな御指摘がありました。やはり幼児期というか、特に小さいときの栄養摂取の改善

	<p>と健康、それから教育、ここは非常に密接な関連があるということのようございまして、ちょっと付言をしたいと思います。パンと言ってもですね、要するに菓子パンです。</p> <p>以前にもお話をしておりますが、鳥栖はもうフードバンクを始められておまして、家庭訪問のときに米を持って行ったりということをやっております。ここは大変難しいと思っておりますのが、やはり基本は自立をしていただかなければいけないので、あまりに支援をしすぎるとそちらにずっと頼ってこられて、自立する心をなくされるところもございまして。ですので、そこら辺のあんばいというのが大変難しいなと思っております。基本は月に1回ケースワーカーさんとか、こども育成課とか集まっておりますので、それぞれフォローしている皆さんの状況とか、新たにフォローしなければいけない方が出てきたときにはその情報交換とか対応について協議をしていただいております。その中であぶり出された食事ができてない御家庭については、そのフードバンクから家庭訪問のときに米を持っていきまして、まずは御飯を食べてもらうようにしようということで取組みをしているということございまして。</p> <p>学校教育課の方で保健医の先生から口腔ケアについて御指摘があった後のフォローの仕方とか、何かございましたら教えていただきたいんですけど。</p>
平川学校教育課長	<p>学校教育課平川でございます。市長の方からいただいた情報につきましては、申しわけありませんが学校教育課の方ではつかんでおりません。学校の方に問い合わせ、そこは今後情報をあげて連携をとっていきたくと思っております。申しわけございません。</p>
天野教育長	<p>今歯科検査の話がありましたが、もちろん学校で歯科検診をします。その時に小学校の場合、問題のある子供は保護者宛てにちゃんと通知を書いて出すということを繰り返しております。例えば準要保護を受けているところは、料金を補助するから受診しなさいよというふうに、私がいたときもそうでしたから今もやっていると思います。結局は歯科検査であがってきて、いろんな状況を持った子、この子は厳しいんじゃないかという子に対しては、学校でそれぞれ指導してプリントを配付してということなるんですが、そのあと、そのプリントを見ているかっていうことですね。やっぱりすごく教育に熱心で子育てのことを考えておられる親はすぐされると思うし、そういう補助があるのでやりましょうと促してもなかなかされないところもあります。そういう子供はもうそのままずっといくというような状況があるんじゃないかなと思っております。しかし、学校ではやっているというのは事実だというふうに思っております。</p>

	以上です。
古澤教育委員	<p>口腔ケアに関することで関連して言えば、たしか10日前くらいのニュースで全国的に有名になった、虐待された子供さんの前歯が通常虫歯やネグレクトとか、それだけではこういう状況にはならないだろうというくらい、前歯の3本が真ん中くらいまで虫歯の状態になってましたけど、本当にひどい状況でした。これは、殴られたりといった虐待もあるんじゃないかなということで通報があったそうです。そこから分かったというふうにおっしゃってました。歯科医の方の専門的なケアでアドバイスいただいた部分も非常に大事だろうし、学校の先生方も日々子供と触れ合う中で、しっかりとそういった部分は認識してもらえると違ってくるのかなというふうに思っているところです。</p>
天野教育長	<p>貧困家庭の実態ということで今回こういうテーマを挙げていただいたんですけども、問題はやっぱり今現状どのくらい学校にそういう子供たちがいるのかっていうのを把握するのがなかなか難しいんですよ。準要保護家庭であるとか要保護家庭というのは分かるんですけども、そうじゃなくて今言っておりました児童虐待、ネグレクトも含めて、なかなか学校に見えてない部分があるということを考えると、今歯科検査のことを言われたので、ああそうか、そういうところでも見るべきだろうということを思いましたが、やっぱり今林係長から話があったようなものについてはなかなか情報共有できないんですね。だからそういったところが一つの大きな課題でもあるし、私も今回、鳥栖市のいろいろな状況について聞かれても、なかなか貧困家庭でフードバンクをしているところはどれくらいあるのかとかいうようなことについては把握できてない部分もあります。うちの場合は教育相談係の秋山囑託指導主事がいますから、彼に話を聞きますと、今年はフードバンクで5件ぐらいの家に持っていきましたという話を聞きました。</p> <p>そういった情報を共有しながら学校にも流すべきところは流して指導するとか、地域社会、民生委員の方々も含めて、そういった形でやっていかないといけないと思います。そうしないと、児童虐待もですが見えないまま見過ごしてしまう。そういったことを非常に危惧しています。以上です。</p>
橋本市長	はい。
古澤教育委員	<p>ひとり親世帯の方の中には一般よりも所得的には低い方のほうが多いのは理解できるんですけど、ひとり親世帯だからという見方ばかりしてしまってもいけないのかなというふうに思っています。それと、例えば子供に障害があるから、親御さんに障害があるからとい</p>

	<p>うことで働いておられない方も中にはいらっしゃるでしょう。離婚に至ったのは親の責任でしょうけど、子供を引き取って育てているからには低所得であってもですね、一生懸命働いてある親御さんのほうが割合的には多いだろうというふうに理解しています。ワーキングプアとか言われますけれども、やはり一定のきちとした資格も持たずに働いたりとかいうことになってくると、日本人の所得の平均が 230 万円と言われている中で、その半分に行くかいかないかぐらいかなという状況は容易に想定できます。その一生懸命頑張っている方たちに、必要に応じて、その人が本当に困っていることに対してどういう支援ができるかっていうことが大事なんじゃないかなというふうに感じているところです。</p>
橋本市長	<p>母子家庭とは他人事ではありません。私も小学校 2 年生で父を亡くして母子家庭で育てておりますので、一定のところは分かるような気もしなくはないです。</p> <p>こども育成課で児童種別年齢別受付相談状況ってありますけど、例えばこういう相談を受けたときに、学校あるいは幼稚園、保育園との連携はどういうふうにとっているんですか。</p>
林こども育成課長補佐	<p>はい。保育所に通園されてる方であればそれぞれの保育園の園長や担任の先生、学校に関しましては教育委員会を通じて家庭児童相談員と学校のスクールソーシャルワーカーさんとか、そういったこと連携して訪問を行ったり、相談を受けたりということを行ってます。</p>
橋本市長	<p>ということは、ここに挙げていただいている相談については、ほぼ関連する各部署とは情報共有ができていると思ってよろしいんですね。</p>
林こども育成課長補佐	<p>そうですね。件数全てがこども育成課の家庭相談員で受けたものではなくて、情報として得たものも含まれてますので、その情報のもととしてはソーシャルワーカーさんだったり、児童相談所であったり、そういったところも含まれておりますので、情報共有はできています。</p>
天野教育長	<p>今言われたように貧困家庭への対応をどの課ですかということですが、こども育成課子育て支援係とか、そういうところでしていただくのがメインなんですけど、福祉と教育の連携でやるというのはもちろん大切だと思います。学校がメインだからということで、もちろん学校が大きな責任を負うところもあります。学校教育課の方によくこども育成課の方に来ていただいてまして、情報共有をしながらその報告連絡相談の情報が我々にも上がってくるんですが、その体制がちょっと弱いんじゃないかなと思います。どういう形で</p>

	情報共有されているのかなという心配もしてたんですけれども、そこはどうか。
林こども育成課長補佐	小学校に関することにつきましては学校教育課の教育指導主事の秋山先生とも一緒に回っていただいたり、対応していただいている分もありますし、先ほどのケース会議、実務者会議も出席していただいておりますので、そこでの連携、あとは繰り返しですけどスクールソーシャルワーカーさんとの連携も図っております。
橋本市長	何かこれまでのところで疑問点とかございましたら。はい。
戸田教育委員	質問なんですけれども、その逆のケースはあるでしょうか。要は学校側から問題発見のきっかけになって、そちらに連携するというような流れっていうのはあるでしょうか。御説明の中で直接児童と接する場っていうのはその発見の場になる。やっぱり学校もその大きな一つだと思うんで、先生方から上がってくるような流れっていうのは、ありますでしょうか。
橋本市長	平川課長何かございますか。
平川学校教育課長	<p>確かにそういう連携は非常に難しいところであるんですけれども、夏休み明けですね、いわゆる給食を食べてない時期があって学校に久しぶりに出てくるといったときに、激痩せといいますか、急激に痩せていたりとかいうことがないのかという調査は今年もかけております。その中では、そういった報告は学校からは上がっておりませんでした。そういう指摘が昨年ぐらいにありましたので、長期休み明けは特に子供たちの変化、痩せたりとか髪の毛が伸びたままになっているとか、服装が特に汚れているとか、あるいは逆に太っているとか、身体的な見える部分であざがあるとか怪我をしているとか、あと子供の持ち物ですね、そういったものに特に変化があるかどうか気を付けています。中学校の場合は、よく化粧をしてくるとか髪を脱色してくるとか、あるいはピアスをしていくとか、そういう子供たちの変化についてはよく気をつけているんですが、小学校においてもそのような身体的な変化、それについては気をつけて見ておくようにという指導をしておりますが、直接学校教育課の方に上がってきたというのは、私の記憶では今のところございません。</p> <p>ただ、スクールカウンセラーとかスクールソーシャルワーカーさんも頻りに学校に行っていただいておりますので、その中でスクールソーシャルワーカーさんに直接相談をされたりというようなケースはあるかもしれません。実際にそういうのがあってこども育成課につないだという記憶は今のところございません。以上でございます。</p>
橋本市長	普通、市民の皆さんはスクールソーシャルワーカーとか、そうい

	<p>う存在そのものを多分知らないんですが、その皆さんにお手伝いいただくというのはどういうルートなんですか。やっぱり学校とか、こども育成課とかそういうところに相談をして、携わっていただけませんかって話になってくるんですか。</p>
平川学校教育課長	<p>学校教育課の場合は担当の指導主事がおりますので、そこに相談がきた場合はその相談の案件によりますけれども、そういう方に入っていていただいてこども育成課とか福祉につないでいただいたり、児童相談所とか医療機関につないだりとかそういうことをしていただいております。こういう方がいらっしゃるよということで全ての保護者の方に積極的に御紹介しているような状況ではございません。</p>
橋本市長	<p>これは各御家庭の問題なのでなかなか我々が手突っ込んでどうこうにくい話ではあります。ただ最初に申し上げたように、やっぱり幼児期の栄養摂取の問題とか、そういうのが将来的に非常に大きく影響を及ぼすということで、ここを何とかしのぐことが大変重要なことかなというふうに思っております。やはり幼児期の栄養摂取がちゃんとできてないと、例えば成績とかそういうことにも影響があるというふうに聞いておりますし、各町で子供食堂みたいなことを始めているところが何町か出てきておりますけれども、それぞれが月に1回ぐらいなので、日々3食の話なので啓発活動と思わないといけないかなと。そういうことが結構この豊かになった日本社会の中でも、すぐ隣で起きているんだという認識はぜひ広げていただくように働きかけることが大切かなというふうに思います。ここはもうここで議論しても解決策はすぐ見えてくるものでありませんので、まずは御認識をいただければということで御紹介しました。何か。はい。</p>
古澤教育委員	<p>関連しますけど、スクールソーシャルワーカーを一般の方は知らないだろうというお話がありました。そのことについて、改善できる方法としては始業式のときに式典が終わった後に子供さん、保護者の方に担任の先生とか先生方の御紹介があっているように思います。合わせて、例えば交通指導員さんなどいろんな御紹介をされてる自治体があるんですね。そういった中にもしも可能であれば、御本人の意向もあるかもしれませんが、御紹介しておく学校にはこういった方もいらっしゃるんだというふうに認知されて、いざという困ったときには先生だけではなくてそういった方に御相談ということがあるのかなと思います。どちらかという、スクールソーシャルワーカーは学校側からお願いして活動されるパターンが多いように感じてるんですけど、それも一つのやり方ではないかな</p>

	<p>と思います。年度当初、学校が始まる当初にお知らせして、顔をつないでおくというのも大事ではないかなと感じました。</p>
天野教育長	<p>スクールカウンセラーの方はかなり PR をするんですよ。学校便りに載せたりとか PTA の前で紹介したりとかするんですけど、このソーシャルワーカーは内容的なものがあるってなかなかやらないんですよ。貧困家庭とかそういったところは回っておられるんですけど、なかなかこの存在というのは各学校でもあまりご存じない部分もあると思います。今鳥栖で 3 名おられまして、今後もっと増やしていこうという国の考えがあるんですけど、これをどのように啓発して PR していくかということは、ちょっとまた考えていかなくちやいけないという部分もあるというふうに思っています。以上です。</p>
副田教育委員	<p>私事で非常に恐縮なんですけど、実は私の娘が子供 2 人を連れて離婚をいたしまして、シングルマザーとなった経験がございます。そのときに、子供が年長さんと小学校 3 年生でした。ずっと相談を受けてまして、そのときに専業主婦状態でしたので、特別な技術があるわけでもなく 2 人の子供を連れてというのは考えが甘いと言ったんですが、子供は手放したくない、でもとても耐えられないので離婚したいということで 1 年ぐらいずっと悩んでおりました。でも子供が 20 歳になるまではとにかく自分の責任なわけだから、親の責任として下の子が 20 歳になるまでは離婚しないようにと、経済的にも大変なのは分かっているからということをやったんですが、途中で身体を壊しまして、それでこの状態が続くと彼女はもっと身体を壊してしまうと思ひまして、親として身体を壊すようだったら離婚しなさいというふうに言いました。</p> <p>そのときに、具体的に計画を立てさせました。資格がないあなたがどのようにして、どこで働き、そしてどこに下の子を預けて生活をしていくかということで、私もできる限りのお手伝いはするからということや言いました。彼女は医療事務の資格を取りまして、そして正社員として就職して頑張って働きました。今年再婚したので新しいお父さんもできたわけですけども、今家ももうすぐ建つところですよ。とてもいい方と巡り会えてよかったなと思ひておりましたが、そのときに私が思ったのが、彼女の支出が収入に見合っていないんです。結婚していたときの生活の支出が身につけているものから、それを想像の中で節約するということが最初のときできませんで、そのところが彼女にとって非常にストレスになったように思ひます。</p> <p>とりとめもない話になってしまひましたが、私自身の経験から、離婚するということになったときにちゃんと具体的な計画、どうに</p>

	<p>かなるだろうではなくて、そういうシミュレーションができたり、勉強会のようなものがあればいいなというふうに思いました。大人なので本人の問題だと彼女も言いましたけれども、周りを頼りまずし結局はやはりこちらに時間的にも経済的にも負担が多くきましたので、そういったところでオープンに勉強する場、具体的に計画が立てられる場というようなところがあればいいなというふうに思いました。たまたま私は彼女を支えることができましたけれども、そういった近くに支えてくれる人がいない方の場合は精神的、経済的に追い込まれていくと虐待というような形になっていく場合も多々あるのかなと思います。すいません、恥をさらしたようですが、以上です。</p>
橋本市長	<p>大変おっしゃりにくい話をさせていただいてありがとうございます。なかなかそういう準備万端に整ってという話にはならないのがこういう世界だと思うんですけども。はい、どうぞ。</p>
古澤教育委員	<p>イントロの説明の中で市長がひとり親でも親御さんと一緒の場合はまだしっかりと自立できているというような御説明があったかなと思います。確かにそうだろうと思います。しかし、転勤してきたりとかその人の状況によっては親御さんと同居できない部分があると思うんですね。そういう場合にはやはり地元にお友達など、しっかりとした人をつくれるように自分も努力し、周りも見過ごすことなく、どうにか手助けできるような優しい気持ちを持っておく必要があるんじゃないかなと思います。</p> <p>今副田委員がおっしゃった部分については、結婚するエネルギーと離婚するエネルギーというのが、圧倒的に離婚のほうがエネルギーが要るんじゃないかなと思います。決めたからには、もうすぐに顔を見るのも嫌だということ動くのは早いんじゃないかなと思うので、なかなか難しいかもしれません。アメリカ並みに日本も離婚の割合が増えてきているので、ちゃんとした大人であれば、子供さんを育ててあるような状況であればなおさら、そういうことも頭の隅に入れて行動する必要がある時代になっているのかなというのが個人の感想です。</p>
副田教育委員	<p>ちなみに私は娘や孫と同居ではなくて別居でした。車で17分ほどのアパートを彼女は借りましたが、私が結構フルタイムで働いておりますので、彼女が残業になったりしたときに孫を迎えに行ったりとかできないことがあるわけです。本当に地域の方が支えてくださいました。引っ越してきたばかりの娘家族を学校全体で迎え入れてくださって、ですから今その地域に家を建てているんです。一生ここで過ごしたいということで、いいところに恵まれてよかったな</p>

	<p>と思っております。</p>
<p>平川学校教育課長</p>	<p>先ほど戸田委員さんからお尋ねのあった、学校から逆でないかということで先ほどないというふうにお答えをしましたが、よくよく考えてみますと見るからに虐待を受けているというような状況ではなくて、例えば問題行動、深夜徘徊とか家出とか、そういったところから事情を聞いていく中で、家で親からひどく叩かれてるとか、きちんと食べていない状況があったとか、そういうことが分かってきたこと等はございました。そういったことで学校教育課の担当指導主事とスクールソーシャルワーカーで連携して、その中で福祉関係とかそういったところと連携をしていくといったケースは幾らかございました。訂正をさせていただきます。</p>
<p>橋本市長</p>	<p>ありがとうございます。なかなか根は深いというか、社会にも家庭にもなんだか余裕がなくなっているんだなという気はしておりますして、やっぱり核家族が進んでいくと家庭の中に他の人を入れない傾向が非常に強いですね。私の小さいころはよそのお宅で御飯をいただくことは結構あって、よそのお宅の御飯って大変おいしいんですよ。食べ慣れてないっていうのはあるのかもしれませんが、そういうことは当たり前のようにありました。また、私が小さいころ、下野という昔は交通手段があまりないところの出身の方で、うちから鳥栖高校に通って卒業した方もいたんですね。</p> <p>そういうことが結構当たり前のようにやられていて、全く関係がないわけではないでしょうけど他の家の人や兄弟のように育ったという人たちがいるんですよ。昔はみんな貧しかったからお互いが助け合おうというところもあったらうし、そこはやっぱり豊かになったことで、どちらかという持ちつ持たれつが関係が全部お金を介さないといけないようになってきているところもあるのかなという感じがしております。今の若い人はそういうことが鬱陶しいと思う人もやっぱりいるんだらうと思いますので、そこら辺は時代のあるいは社会のありようということが関係するのかなと思います。</p> <p>鳥栖としてはやはり先ほど申し上げたように、こういう状況に置かれている人たちがいるんだということを忘れないでほしいということと、そこは社会が一緒になって地域の子供を育てるんだというような感覚を持っていただくような啓発というのは続けていって、その意味でも子育てしやすい良いまちになるようにということでの取り組みを続けていきたいなと思っております。今日は答えを見つけるのではなくて、こういう状況がありますということをお知らせしたいと思っております。先ほど申し上げたように、鳥栖の場合は仕</p>

	<p>事を求めて移り住んでくる皆さんが多いところなので、保育園もひとり親の家庭のお子さんが非常に多いところであります。ですので、そこはやはりこの地域特性を認識しながら保育園の保育士さんたちも気にかけていただいて、どうかと思うようなことがあったら連絡がとれる体制というのは常に保ち続けていきたいというふうに思っているところでございます。はい、どうぞ。</p>
<p>天野教育長</p>	<p>たくさんの意見をいただいて、我々も学校としても反省するべき点があるんだなというふうに思います。私自身もやっぱり見てない部分もあるんですけど、今課長が話をしたように私たちは学校で長期休業後の子供の様子であるとか、子供の持ち物であるとか、親の滞納の状況であるとかそういったことから状況を把握してはいますが、今後は今ヒントをいただいた歯科検査のことであるとか、そういったことをしっかり受けとめて、学校の先生方も情報アンテナを高くして子供たちを見ることが大事だと思います。</p> <p>そして、その状況については学校教育課から内容によってはこども育成課の方に回し、ソーシャルワーカーの方に回しながらという形をとり、そういったことを校長会あたりで学校へも指導していきたいと思います。こういった子供がいるという状況があるんだから、どうしても学校側はそういう子供はおりませんよという、そういった答えが出てくることが多いので、その辺も含めて子供たちの現状を知り、体罰など児童虐待も含めてしっかり考えていかなきゃいけないと思いますので、よろしくお願ひしたいというふうに思っています。以上です。</p>
<p>橋本市長</p>	<p>はい、ありがとうございます。それぞれみなさんが注意力というか、よく観察をしていただくことで、そこら辺の問題は早めに拾い上げて対応ができていくと思いますので、ぜひ御協力を賜ればと思っております。この件についてはよろしいですか。はい、ではこども育成課と社会福祉課の皆さん、ありがとうございます。</p> <p>では次に、働き方改革について、問題提起をお願いします。</p>
<p>天野教育長</p>	<p>教職員の働き方改革についてということではさまざまな対応を行っているわけですが、実はこの文科省から出ている資料の6ページの11のところ、教育委員会事務局の体制整備ということであるんですけど、「教育委員会においても、所属職員の業務の適正化が図られるよう、体制整備の実現に期するべく、組織内でも業務の精選等を積極的に実施するとともに、総合教育会議等を通じて、首長や首長部局等と共通理解を深めること」とこういう内容のものが出されていて、教職員の今の状況も含めてどういった形での働き方改革が一番実働的なものになるのかということを含めてみんなで協</p>

	議をし、予算化するところも出てくるかもしれませんが、その辺について共通理解を図りたいと思ってこの場を設けました。よろしくお願いいたします。
橋本市長	どこら辺が課題と認識されてるんでしょうか。
平川学校教育課長	(資料に基づき説明)
橋本市長	大学の先生をなさっている戸田委員はいかがでしょうか。
戸田教育委員	どの点についてでしょうか。
橋本市長	教師が担うべきものと、担うほうが望ましいけど軽減が理想だとか、あるいは教師が担わなくてもいいものと、なかなかオーバーラップしていて、ここらびしっと線を引くというのは難しいんでしょうけれども、そこはやっぱり大学っていったらかなり学生さんの自主性とかが基本でしょうから違うと思うんですけど、どうでしょうか。
戸田教育委員	<p>大学は基本的にほったらかしなので、小学校中学校の先生方はいろんなことに関わっておられてすごいな、大変だろうなというふうに思っています。今日の午前中の会議も含めて先生方の働き方改革、小さなことから大きなことまでいろんな御努力をされているんですけども、恐らくさっき平川課長が言われたとおり、先生方はよかれと思って当然のことと思って時間外、土日に働いておられるので、これはしなくていいよって本当に外してあげないと働き方改革は実現できないのかなと思っています。</p> <p>じゃあ何ができるか、例えば部活動であれば、積極的にやられるところはもう中学校の部活廃止とかされているところがあります。ただ、そうなればおそらく先生方の負担は軽減できるだろうけれども、そんなの一朝一夕にパッとできるものではないので、そういう先生方のこれを外しますっていうことのアプローチが必要だと思います。その受け皿はおそらく地域と家庭だと思うんですけども、地域に渡せるものって何かあるのか、それをまずこれからやってみましょうっていうので示していけないかなっていうふうに思います。</p> <p>例えば部活動で、総合型地域スポーツクラブっていうのもスポーツ庁のガイドラインにも書かれていますけれども、今鳥栖にあるそういったスポーツクラブにそれができるパワーがあるかというところも分かりませんが、これにしましよと決めてその後行政も含めて動いていかなきゃいけないでしょう。方向としてはこれをしましよっていうので何か動き出さなければ、先生方の負担軽減、肩の荷を下ろ</p>

	<p>してあげることができないんじゃないかなと思います。もっと積極的な関わりが必要んじゃないかなっていうふうに、報告書やガイドライン等読まさせていただいて思いました。</p>
橋本市長	<p>はい、すいません、急に振りまして。私自身は子供が小さいころに学校にほとんど関わったことがなくて、この仕事について初めて考え始めたことがあってこういう発言をするのは大変恐縮なんですけど、やはり私ももっと反省しなきゃいけないのは、何か物事があると全部学校に振るんですね、みんな楽なので。何かいろいろ知らしめたいものが全部学校、まずは学校に何とかって言ってやっちゃう。それで、恐らくその本来の教育と関わりのない業務がすごく増えている。</p> <p>例えばアンケートとかですね、私のところにもさまざまなアンケートがきます。そういう類いの本来の業務とは関係のない業務が結構多いような気がしています。</p> <p>だからその意味では教育委員会の発信力を使って学校の先生方が努めるべき本来業務とはこういうものでございますと、それ以外は極力学校に振らないようお願いできませんかっていうのは一回やった方がいい気がするんですね。先生方はすごく真面目なので、全部に応えようとされるわけですよ。ですから、やっぱりそこら辺の気質というのを知りながら、みなさんの本来業務とはこれなんですっていうのを何年かに1回はやって、その度ごとに業務の棚卸しとか、作業の棚卸しをしていくことが必要なんだろうという気がしているんですね。</p> <p>だから、みなさんはよかれと思ってこれは子供たちにぜひ、例えば文化的なものは私にさせてと、授業をやりたいておっしゃってやっていただく、これはこれでありがたいんだけど、そのためにすごい準備が必要だったりするんですね。だからそこら辺のところなかなか先生方は言い出しづらいでしょうから、教育委員会として小学校の先生の本来業務とはこういうことでございます、中学校はこうでございますと。</p> <p>あと地域スポーツについても、やっぱり部活動はいろんな議論があってますけれども、今子供たちもプロを目指す子はもう本当に小さいころから、例えばサッカーであればサガン鳥栖のユースからやっているし、野球もそれなりのコースを歩んでいますし、学校と一切関係のないところでやってるわけですよ。だから、じゃあ部活動って何のためっていうと、教育長はまだそこら辺は教育の一環として部活は要るんだという御意見をお持ちなんですけど、もうかなり小さいころからコースが分かれてきています。</p>

今度佐賀県が「佐賀スポーツピラミッド」と言っていて、平成 35 年の国体とかあるいはオリンピックとかに照準を向けて、ピラミッドとは要するにトップアスリートを目指す人たちから、裾野を広げてスポーツに広く親しむ人たちまで含めて、それぞれの階層ごとにさまざまなサポートの仕組みをつくって健康寿命を延ばすとか、あるいはスポーツの中でトップを目指していく人たちをサポートする仕組みをつくろうということでやっているんですね。やっているんですが、じゃあそこで議論となるのはやっぱり中学校の部活をどうするのかということで、ここを目指す人たちは部活じゃ足りないんですね。銀行を退職して卓球を教えてくださいって方がいるんですけど、その方もやっぱりトップを目指すのは小学校でも遅いってわけですよ。小学校に行く前からやっとなないと、ここにはいけませんよっておっしゃるわけですね。だからそれほどまでに世界のトップを目指す人たちと、そのランクによってコースが全く違ってきてるんですね。

そこが学校の実態も含めてあるので、その意味では地域スポーツの中で、例えばボクシングとかは地域スポーツであってたりしますよね。商業高校の先生が小学生だろうが中学生だろうが教えてくださいってし、レスリングとかもそうなんですね。だからやっぱりその道を目指そうっていうのはそこら辺の垣根を飛び越えて年齢も飛び越えてやっているの、繰り返しになりますが、じゃあ部活の位置づけってどうなんだろうということなんです。先生の負担を下げるということであれば、もう部活は中体連もやめときましょうと。完全に地域スポーツで。

鳥栖はまだましな方ですけど、もう西の方は中学校で人数が多い活動はできないんですね。例えば野球が得意な子がいても 9 人揃わなきゃできないわけですから、どうしてもやりたければ他の学校に行くしかないんです。そういう状況がもうそこかしこで起こってくると思うし、規模の小さな学校は個人プレーの競技しかできないようになっていっていますので、団体競技をしたければ、例えば基里中の子は鳥栖中に行ってみようとかになってくるので、中体連そのものが成り立たないんじゃないのかという感じもするんですよ。

だからそこら辺がこの少子化とかもろもろの環境変化を受けて地域スポーツということでくくってしまっていて、野球をやりたい子は鳥栖中に集合とか、バレーボールをやりたい子は鳥栖西中に集合とかできていくと、先生方の負担も減って地域スポーツの指導者の方がそこを教える。プロを目指す子はこっちと、そういう感じもしてるんですけどね。そうすると、学校としての一体感がなくなって

	<p>しまうという意見もあると思いますが、一つ部活という荷物は下ろせるかなと思います。</p>
<p>天野教育長</p>	<p>その通りで、部活を楽しみにして本当に自分は部活のために学校に行ってるというような教員もいるんですね。働き方改革と部活等を一緒に考えることができなかつたり、なかなかそこらへんは難しいなというふうに思います。しかし結論は、今日も午前中部活動についての方針を取りまとめて、そして委員さん方に御意見をいただくというようなことだったのですが、その中で必ず今言ったように地域スポーツということが出てきます。市長さんが言われるとおりそういう方向で部活もやりましようってなるんですが、なかなかそこら辺がすぱっと切れない部分があつて難しいんですね。</p> <p>確かに先生方は真面目なので本当に何でもやるんですよ。頼まれれば嫌って言えないんですね。それから地域のためにこれをやりましようとか結構いっぱい背負ってるんですね。それを捨てきれないという部分があつて、そういう面を考えると今回の働き方改革は、学校として必ずしも担う必要のないこととか、そういうことのすみ分けをしたようなこの方針が出て、これは非常に画期的でした。これで今学校もこれは地域に任せていいんじゃないかとか、これは保護者に来てもらってもいいんじゃないかとか、そういうことがやつと出てきたという状況です。</p> <p>そういった中で今年から基里小中学校でコミュニティ・スクールをやったんですけど、それはとても見ていてよかったなというふうに思います。例えば、基里小は登校の安全指導については学校の先生方がしていましたが、今はこのコミュニティ・スクールを活用して地域にお願いするということで、一つ抜けたんですね。このように、学校でやらなくてもこれは地域に任せるもんだよというふうになれば、文科省の方からも示されているのでこれを「錦の御旗に掲げる」じゃないですけど、その辺については今からいろいろなアイデアが出てくると思います。私も働き方改革についてはいつも校長に思いっきりやっていいですよというようなことも含めて、校長がリーダーシップをとってやってくださいと強く言っています。ですので、これからいろいろ各学校で知恵を出し合いながら、これは地域にお願いするとかなくなってくるかと思っています。</p> <p>実は図書館のシステムを導入したときに、膨大な量の図書にいかにしてバーコードを貼っていくか、スキャンしていくかということで各学校どうしようかってなっていたときに、やっぱり地域にお願いしようということで保護者にお願いをしてやっている状況です。そういう方法であれば、本当に先生方の働き方改革になるなという</p>

	<p>ことで、これは一つ大きなステップになったなというふうに思っています。以上です。</p>
古澤教育委員	<p>2年前の教育委員会の制度の見直し、これは国の主導で実現できたと思っているんですけど、この実現に際しても大きな課題がありました。しかしながら実施するに当たっては、例えば保護者の方の理解とか、そういう部分がそこまで必要なかったかなということでも実施できたんじゃないかなというふうに思っています。もともと二重行政だったように感じておりましたので、これはスリム化されてよかったなというふうに思っています。</p> <p>ただ、今回のこの働き方改革については、国が一步進んだ形で示してくれてるんですけど、これをもう一步進んだ形で踏み込んでくれるかどうか大きな違いかなと思います。学校で業務量を減らしたり見直したりするときには、どうしても保護者の方の理解が得られないと、もう協力しないというようなことがあるんじゃないかなというふうに想像します。そういう中で例えばこぎこぎした仕事を見直すのか、それとも抜本的な本来の業務そのものにメスを入れるのか、大きくやり方として二つあるんじゃないかなと思います。</p> <p>例えば先ほど部活の話が出ました。部活についてはなかなか難しい部分があるのでその他の部分で話をしますと、先生方の負担感、何が負担かというのは先生方が一番お分かりだと思います。例えば授業の前準備、採点、保護者の対応、家庭訪問とかいろいろあると思います。その中のどれが一番大きいウェイトを占めているか、そこに切り込みを入れられるかどうか、入れるにしても保護者の理解を得られるのか、また、どこまで削ることができるか、そういった部分についていきなり個別の協議をするのは難しいでしょう。段階が来たらそこら辺まで想定することが必要なんじゃないかなというふうに思います。私の個人的な思いでは、例えば採点ぐらいは楽にさせてあげたいと思うのであれば、採点のナビゲーションがあるみたいですし、そういったものをもし問題がなければ活用するとかいうように、どうにか具体的に項目を立てて削減可能な分については取り組みをしていく必要があると思います。でなければ「絵に描いた餅」でなかなか負担感は減らないでしょう。</p> <p>先生方の負担感というのはもう 20 数年前から言われていて、はたから見ても先生方大変だろうなと思います。自分たちの知り合いに先生にはなるもんじゃないよっていうふうな感じで言ったりしてたんですけど、それでも先生になった人がいて、やはりその人たちは子供と関わったり教えるのが好きだからっていうことになっていきます。</p>

	<p>そういった話をどこまで国に先んじて、教育委員会として切り込めるかっていうことで、もしも必要であれば知恵を出させていただけたらというふうに思っているとこです。感想になってしまいました。</p>
天野教育長	<p>今回いろんなことに取り組んでやってきたんですけども、やっぱり長期休業中に学校閉庁日をつくったというのは非常によかったです。話をしたときに総務文教の方は先生たちはあんまり来ないからそんなに関係ないだろうという感じだったんですけど、そうではなくて、教頭とか休みの日もよく学校に行くんですね。ですので学校は休みます、その時は閉めますとってスパッと3日間休むようにする。教育委員会としてそのことをしっかり地域の方とかPTAも含めてPRしてやっていくべきだと思います。</p> <p>また、ノー部活デーやノー残業デーとか決めていますので、それについてもプリントを作ってPTAや保護者、区長会、民生委員会でも渡して、しっかりやっていこうということです。この部活動休養日とか非常に効果がありましたし、地域の方に分かっていたいて、こういうふうに行うことができることからやっていこうということをやっています。</p> <p>一番問題は先生方の意識です。だいたい遅くまで残っている職員は決まっています、今まで時間に関係なくずっとやってきた経緯があり、職員の意識化っていうのがなかなか図れないんですね。今はパソコンで時間を計ってということもやっているわけなんですけど、やっぱり個人の意識化を図ることが一番大事であるというふうに思っています。定時退勤日があるからそれを踏まえて仕事をしなさいとか、個人個人の意識化について今言ってますけど、学校の方では思うように上手くいっていない状況です。なかなかさばけないというか、そういうところが大きなポイントだなということで非常に苦労してるところがあります。以上です。</p>
橋本市長	<p>これは実態として、例えば保護者の方が先生への相談とか非常に多くて、そこにつかまって結果休みの日も仕事をしてというパターンって結構多いものなんですか。</p>
平川学校教育課長	<p>せっかくの機会ですので、少しお話をさせていただいてよろしいでしょうか。超過勤務が非常に多いというのが、教員のすることが多くなった、それから時間外にしかできないというようなことがあって、休みの日にするようになっています。</p> <p>何が増えたのかというと、これは私個人の考えかもしれませんが、学校教育の範疇が広がっているのではないかと、それから個別での丁寧な説明と対応、これが非常に増えたのではないかと思います。それから、説明責任を求められることが増えて、こういう</p>

ことへ時間を割くことで、先ほど市長からお話のあった本来の業務、学習指導要領に明記されている教科指導に関わること、道徳に関わること、特別活動等に関わること、あるいは生徒指導等に関わること、心の教育に関わるようなこと、ここへ時間を割くことがなかなかできなくなっています。

保護者の方も仕事をしている方が増えたので、保護者の仕事が終わった時刻以降に保護者へ連絡をしたり、家庭訪問などをすることが増えました。昔は、「お母さんに伝えておきなさい」で済んでいたことも電話できちんと教職員が伝える、場合によっては家庭訪問してお伝えをする、そういうことをきめ細かにやることで学校への信頼とか関係がつながり、逆にそれを怠ることで後々大変なことになるということも数多くなっただのではないかなというふうなことがあります。

子供たちをしっかりと見ることは我々の仕事でございまして、授業の準備や先ほどありましたノートや作品の点検、それから中学の部活動については平日できない分、休日にやろうかというふうなこともあっているのではないかなというふうに思っております。これ以上は学校ではできませんという根拠が何もございませぬので、先ほどから出てますように、子供のためならと自分の時間を献身的に使って仕事をする教員もまだまだ多い状況です。また、そこに魅力を感じて教員を目指している若者も多いのではないかなというふうに思っております。そうすることで保護者が地域の方との信頼関係ができていくという現状もあるかと思っております。

また、学校に求められることが20年から25年ほど前に比べるとかなり大きくなって多くなっている。これは社会の今日的課題から規範意識の低下などの解決や、高速で変化する社会に対応するため、社会的資質の育成を学校に求められるようになってきているということです。いつの時代もその時代に即した教育が求められているのは重々承知しておるところでございしますが、現在の状況としましてはそのスピード、広がりという対応に現在学校現場がついていけないんじゃないかなという感じがしております。一つのことが始まって、それが定着するかしないかのうちにもう次の改革が始まっているというような状況です。

学習指導要領に明記されていること以外に〇〇教室とか、〇〇教育というようなことがかなり増えてきてるんじゃないかなと思います。例えば20年25年前にはなかった社会問題の今日的課題の解決等に含まれるものでございしますが、薬物乱用防止教室、防煙・禁煙教育、税金をちゃんと納めましょうという租税教室、選挙権が18歳

	<p>になりましたので主権者教育、高齢化に伴って認知症が増えてまいりましたので認知症の教育、暴力団を排除するという動きが近年非常に迫ってますが、暴力団排除教育、温暖化も含め環境問題、自然災害が増えまして昨年と今年鳥栖市でも行っております防災教育、先ほどから出ております食べ物に関する食育、農業体験が少ないのではないかとということで農業体験、マナーができてないということでマナー教室、障害者とともにある社会を学ぶための障害者理解教育、外国からの方がたくさん来られていますので国際理解教育、キャッシュレスの時代ですのでお金の使い方についてきちんと学びましょうという消費者教育、先ほど言いましたインクルーシブ教育、ユニバーサルデザイン教育、それからネット社会ですのでネットモラル教育などなど、そういうことを学校で行いましょうというふうに求められている状況です。</p> <p>これにはそれぞれ専門的な方が関わっていただいておりますが、これを実際していただいた後にどうしていくかっていうのは学校の教員に求められるところがございますので、こういった問題を学校の中で解決をやっていくということですね。どうやっていいかというところは大学で習って入ってくるわけではないですので、学校の先生たちもとても意欲的に学んでいってはおりますが、やろうとしてもなかなかついていけない状況もあるというところがございます。こういったところが非常にジレンマを感じていて、でも断れなくてやらなきゃいけない、でもどうやったらいいのか、そういうふうなところの想いは先生方にあるんじゃないかなというふうに思っております。以上でございます。</p>
橋本市長	<p>みんなが小中学校の時に知識を持っていれば大過なく社会生活を送れると思って、小さいうちに勉強させておこうということで始まっているんでしょうけど、やっぱり今ご紹介あったように、家庭でやらなきゃいけないというか、やっていたことを家庭の教育力がなくなってきたのかやる気がなくなってきたのか知りませんが、それらが全部学校に持ち込まれているような気がして、そこがやっぱり大変さを増しているというはあるのかなという気がします。お金の始末なんていうのは、小さいころお小遣いをもらった時にお金は大切に使わなきゃいけないと散々言われていて、そこをなんで学校でしなくてはいけないのかという感じはしています。</p> <p>あと保護者の皆さんの丁寧な個別対応ですね。以前お話ししましたように、特別支援学級に行ってる子の保護者が先生から非常に丁寧な状況報告を受けてということですが、その先生は朝一からずっとそれにかかりっきりで子供はほったらかしで、保護者はとてもい</p>

	<p>い先生だと思っているけれど、子供には何も関わっていないということもあっているみたいで、本来業務を置いてそっちに集中してしまう。こういう方たちはいくら言っても同じなんです。そういう方もいます。</p> <p>古澤さんからご指摘いただいたことも例えば部活に熱心な先生だとそこについては負担感を抱かないんですね。あるいは教えることに熱心で準備作業を一生懸命やっている方、そこはそこであまり負担感はない。やらされ仕事と受け取ってしまうと、負担感が出てくる。ひとくくりにここだけ外せばみんなが軽くなるということではなくて、やっぱり個別にその先生ごとに負担感というものは違ってきているというところの判断ですね。</p> <p>ただ、平川課長がおっしゃられたように〇〇教育っていうのをぼんぼんぼん学校に全部投げてしまっている責任もあるのかなと。吉原委員さん。</p>
吉原教育委員	<p>順を追って仕事量を減らすというのは古澤委員が言われたように当然分かります。ネット化についても学校によってはPTAに声をかけてお母さん方が来て体験のボランティアというところもありますのでですね、そういうのを活用いただくというのは必要だと思いますし、この資料の一番上の別冊資料の2番教員における働き方改革に関するまとめですが、基本的には学校以外が担うべき業務ということで登下校に関する配慮とかですね、周りの校長先生に聞くと毎朝保護者さんが立っているところを回らないと、あんた一時来とらんかったねとか言われるそうです。当然学校が始まる前の準備もあるから非常に気になるというお話も聞いたことがありますし、逆の立場ならそう思いますし、やっぱり順を追ってじゃないけど、できることをして行って、投げかけていながら一つ一つしていかないとっぺんにというのは難しいのかなと思いました。</p> <p>今年からパソコンで学校に入る時間、退社される時間を管理されておりまして、そういった時間を認識するというのも重要になってきますので、大事なやり方かなと思っております。そういうのを今後また大変でしょうけど、取り組みをお願いしたいと思います。以上です。</p>
古澤教育委員	<p>発想を変えて、例えば教育委員会からどうこうではなくて、保護者の方も学校の先生たちは働き過ぎで大変だろうと思ってある方が多いのではないかなと思います。保護者の方に働き方改革についてしっかり考えていただいて、この部分は削れるんじゃないかとかアイデアを出していただくと、動きやすいんじゃないかなという気もするんですね。こちらから言っても、やっぱり最終的にネックに</p>

	<p>なるのは保護者の方の理解をいかに得られるかどうかだと思います。</p> <p>今吉原委員がおっしゃった部分についても、登下校で地域の方が立っているのに先生が来なかったら確かに気まずいというか、申しわけない部分があるでしょうし、それを超えると先生は全然来ないよと先々ならないとも限りません。そういった部分について、地域の方から先生方忙しいだろうし自分たちが立つから、生徒に教える方を頑張ってくださいっていうふうな意見が出るというのかなと思います。そういったことでないと、なかなか進まないんじゃないかなという気がしております。</p>
天野教育長	<p>これだけ働き方改革が言われていて、だから学校としては今チャンスだからということで、先ほど言ったように登下校のことについても見守りにについても、学校だよりであるとか校長だよりであるとかで保護者の方に理解をいただいてっていう形でボランティアの方をお願いをしています。そういった意味では各学校工夫をしているんなことをお願いできないだろうかということやってますので、それを教育委員会としてしっかり後押ししながらやっていきたいという風に思ってます。</p> <p>たくさんのいろんな教育がきていてですね、例えば鳥栖市の防災の友とかありましたし、それから教育課程の研究試験もありましたし、活用力も受けているっていうのもあるんですけど、そういった意味でいろいろ受けているのは受けているながらも、うちとしては教科「日本語」を確実にやらしてもらわなくてはいけない、その辺を学校に上手にメリハリをつけてやりなさいと、これはもうせんでもよかよというふうなこと含めてやっています。最終的には校長先生方を中心にする必要ないならやらなくていいよとか、なかなかこの辺が上手くいかないということも含めてね、今後しっかりその辺の指導をやっていきたいと思います。</p> <p>うちとしてもなるべくアンケートをすとか会議を開きましようとか言ってますけども、なかなか難しいところもあって、子供の事故も多いし、報告書も簡単になるようお願いはしているんですけど、そういった意味でも考えていかなきゃいけないと思います。しかし風は吹いているなあと、チャンスだなあというふうに思ってます。</p>
橋本市長	<p>ありがとうございます。学校現場における業務改善計画について書いてあることっていうのは、これは保護者の皆さんはご存知なんでしょうか。</p>
平川学校教育課長	<p>学校には伝えておりますが、学校から保護者へ配っていただくような指示まではしておりませんので、学校止まりになってはいるか</p>

	<p>などと思います。学校の判断で毎月やっています嘱託委員会、そういうところで配っている学校もあるかもしれませんが、そこは確認をしております。</p>
橋本市長	<p>やり方として、例えばこういう情報が保護者の皆さんに伝わらないと、多分各保護者が自分の視点で見てるだけなので、先生方の勤務実態の姿というのは見えてないと思うんですよね。だから例えばPTAの役員会とか、嘱託員の皆さんにもこういう実態を知らせて、この中で先生方の過重な負担になってる部分がありますということをお相談の方がいいんじゃないかなという気がします。</p> <p>内々にため込んでいると、俺の言うことは全然聞いてくれないというような話になるんじゃないかなという気がしていて、もう正直なところ今の先生方の勤務実態はこうでございます、教育委員会としてはこちら辺が課題だというふうに思っております、この中で何とかよりよい教育環境をつくるためにも先生方の負担をもう少し減らしたい、そこで地域とか保護者の皆さんの中でどこか御協力いただける部分がないでしょうかという御相談があってもいいような気がするんですけど、いかがでしょうか。そうでないとやっぱり保護者それぞれで多分視点が全く違うので、共通認識が持てないでしょう。PTA総会の中で〇〇小学校はこれとこれはもう終わりにしますとか、あるいは外すということで、先生にはここに注力をしてもらえるにしましよとなれば随分違うような気がするんですが。</p>
古澤教育委員	<p>やりがいとかいろいろあると思いますが、たくさんのお仕事を背負ってくださった状態で子供たちに授業を教えるよりも、幾らかでも荷物を下ろしてもらって、颯爽とした姿で子供さん方に対応してもらう方が当然いいわけです。そういった部分は回り回って最終的には子供さんへの享受ということにつながるということを上手に言っていただいて、PTAも含めてやっていったらどうかなというふうに思っているところです。保護者の中のリーダー格の人たちを幾らか説明して味方につけるといって、サポーターにしまったらどうかなというふうに思います。</p> <p>それと平川課長が申し訳なさそうに説明をされていたいろんな〇〇教育というところで、確かに必要だなと思うし、これが国とか県とかどういうルートできているのか存じませんが、対象年代が分かればこれは今じゃなくていいってなると思うんですが、いつからかこんなにたくさんの方がいるから本当に大変だろうなというふうに思います。</p> <p>経験上30何年前に私も前の職場のときに、税に関する書道コンクールというのを私の発想で久留米市内の小・中学生に書かせる取り</p>

	<p>組みを提案して、校長会でお話をしたうえで事業をするんですけど、当初教育委員会からはっきりとノーと言われました。今考えると先生たちよく断られる勇気をお持ちだったなと思ったんですけど、これ以外に虫歯予防デーのポスターとかいろいろとあるんですよというふうに言われました。めげずにまたお願いに行ったら分かりましたということで、何十年と今も続いてやっている事業になってるんですけど、子供たちに税のことを理解してもらう一つのきっかけになればという思いでやった覚えがありました。先生方もやっぱり一方では断る勇気っていうのも持っておられてました。</p> <p>これだけ 20 ぐらいの新たな〇〇教育っていうのがあれば、もうこれから先もノーっていうふうな姿勢もお待ちいただければなと思いました。</p>
橋本市長	<p>この〇〇教育というのは全てが全生徒対象ではないですよ。多分学年毎に何歳ぐらいではこれと違ってやっていくでしょうから、その辺分散すればいいんでしょうけど。やっぱり保護者とか地域の皆さんにこういう状況で何とかお手伝いいただけませんかっていうのはあっていいような気がしなくはないんですけど、いかがでしょうか。副田さんいかがですか。</p>
副田教育委員	<p>自分の意見というよりも皆さんのお話を伺いながらそうさそうさと思いましたが、先ほど教育長もおっしゃったように、今働き方改革の風が吹いている。その風を受けて先生方の勤務実態を知らせ、そして今学校と保護者との共通認識を得るときなんだというのが、そうさそうさと思いながら聞かせていただきました。自分の意見ではございませんが。はい。以上です。</p>
橋本市長	<p>学校とは全く違うところで働き方改革の悪評も出ておまして、研究所は装置を使ってやったりするんですね。土日は研究所に鍵をかけて出入りができないようにして、21 時以降は帰らなさいということで帰しているそうで、月曜日はまず機械のメンテナンスから始まって実験は午後からしかできず、金曜日は午前中で終わって午後は機械のメンテナンスがあるので、結果として火、水、木しか研究ができない。さらに 21 時で帰らなきゃいけないので 2 日間とか 3 日間かかる実験はできないということで、研究レベルが音を立てて崩れているという実態があるようです。やっぱり業種ごとに働き方は違うんだらうということで、ひとくくりにはできないだらうなという気がします。</p> <p>その意味では学校というのも結構特殊な世界ではありますので、そこにあったような働き方改革というのは模索されるべきだし、やっぱりこれだけ地域とか保護者とか生徒、関係者が非常に多いとこ</p>

	<p>ろなので、その中でどう妥協点というか揉みだしていくのかっていうのは、そこまで巻き込まないとなかなか理解は進まないという感じはいたします。分かったような分からないようなことになっておりますが、やっぱりこういう勤務実態とか課題っていうのがございますと広く知ってもらうことをやらないと、内々に抱えただけではなかなか厳しいかなという気がします。</p> <p>あともう一つ、ぜひ教育長にお願いしたいのは、校長先生方で共通認識を持っていただきたいなと思うんですね。校長先生が変わるとその学校の体質というかやり方がごろっと変わってきますので、恐らくものすごく頑張る校長先生がいると後任の方はえらい目にあってですね、あの人はやってくれたのにこの人はやってくれないって結構言われているみたいです。だからそこは鳥栖市の小中学校の共通認識なんですよっていうのは持てるようにしておかないと、あの校長先生はよかと言ったのにあんた何でだめっていうねっていう話が多分出てくると思います。そこはみんなで渡れば怖くないじゃございませんが、やっぱり一定の地域の理解とか保護者の理解とか考えると、校長先生方の共通認識、共通理解が築かれてないとまたそこで崩れていくのかなという気がしております。</p>
天野教育長	<p>はい、その辺は分かっております。校長が変わって本当に忙しくなったとか、学校の雰囲気もころっと変わったりするんですけども、うちの場合は12人の校長がいて副校長2人で14名、そして教頭も全部入れると30名ぐらいいるんですよ。そこでやっぱりうちとしては、校長会で共通理解を図りながら働き方改革についてもこうやっていきますので、足並みをそろえていきたいと思いますっていうことでやっているんですね。だからその辺のところはしっかり押さえていきたいというふうに思ってますし、さっきから言ってますけどコミュニティあたりのところで必ず入ってきますので、もう少しその辺のところは学校として目指すところ、地域で目指すところ、働き方改革も含めてやっていきたいというふうに思ってますので、しっかりそこを肝に銘じてしていきたいというふうに思ってます。</p> <p>基本的には何のための働き方改革なのか、もちろん職員のための働き方改革で時間的なものもあるんですけど、やっぱり子供のためというか、子供と向き合う時間をつくるということが一番ポイントだと思うんですね。だからそこは絶対崩せないということなので、いろいろな業務がある中でこれは子供のためにということで減らすものはしっかり減らして考えていかなきゃいけないということで、また気持ちを新たにしたいとこでございませう。しっかり教育委員会とともに学校教育課ともやっていきたいというふうに思っております。</p>

	す。以上です。
橋本市長	<p>あと、皆さんからほかに御意見ございましたら頂戴したいのですか。よろしいですか。はい。今日は非常に難しい問題ばかりでございまして、でも貴重な意見を頂戴しましてありがとうございます。今教育長がおっしゃいましたように、子供たちのために何がどうあるべきかということが基本だろうと思いますので、また今後ともよろしくお願い申し上げたいと思います。今日はありがとうございました。</p>